

仙台の農家 猿害対策実験

サルが農作物を食い荒らす被害の続く仙台市太白区秋保町地区で、農業佐藤昭夫さん(68)がオオカミの尿を入れたプラスチック容器を畠に置き、サルを撃退する実験をしている。尿のに

おいでオオカミが近くにいると勘違いさせ、畠に近寄らせない作戦。今のところ効果は上々で、市は「継続的な効果が確認できれば、有効な手段になる」と期待しながら見守っている。

も効くのではないか」と、田の被害を受けている。無料で譲り受けた。打ち上げ花火で脅かす方法も試したが、一時的に逃げるだけで、効果がない。畠の周りに五十ミリ升の容器に入れた。畠の間に隔で置いた。サルは畠に近づくものの、中に入

「近くにいそう」
サルひつかける

米国で飼育されているハイイロオオカミの尿で、独特のにおいがする。佐藤さんの畠は毎年、輸入品などを扱う青葉区の業者から「米国ではシカに効果があり、サルに食い散らかされ、数十万

畠に侵入せず



オオカミの尿が入った容器を手にする佐藤さん

の被害は増加傾向で、二〇〇六年は三百八件、約百七十万円の被害が出た。西部には九ヶループ、家がサルの被害に悩ま

れています。効果が確認されれば、周りの人にも勧めたい」と語る。市農業振興課の菊地利裕課長は「サルは學習力があるので効果がどれだけ続くのかが課題。サル対策の『特効薬』が見つからない中、実験の結果に期待したい」と話している。

オオカミの尿 効果上々

ている。効果が確認されれば、周りの人にも勧めたい」と語る。

市農業振興課の菊地利

裕課長は「サルは學習力があるで効果がどれだけ続くのかが課題。サル対策の『特効薬』が見つからない中、実験の結果に期待したい」と話して